

<p>奈良市</p> <p>手をつなぐ親の会だより</p>	NO 369	平成31年4月12日(金)
	発行	奈良市手をつなぐ親の会
	会長	小西 英玄
	所在地	〒631-0801 奈良市左京5-3-1 奈良市総合福祉センター内
	Tel0742-71-0770	http://naraoyanokai.info/

新しい年号が決まりました 「令和」



今、テレビでは選挙速報が流れています。「荒井正吾氏当選確実ができました」
ご当選おめでとうございます。4年間よろしく願いいたします。

選挙に関して色々の疑問はあります。ただ、障がいをもつ我が子は選挙権がありながら蚊帳の外。これは、私たちにも最初から選挙は無理と諦めの境地があったことは反省すべきことですが、一番選挙で影響を受ける我が子（支援が必要な方）たちに分かりやすい公約を示して欲しいと思います（合理的配慮）。障がいをもつ人たちが我が人生を託せる人を自らの意志で選べる（自己選択・意思決定）を国策は進めているのに、施策と選挙現場が乖離状態ですね。

宮沢賢治氏の言葉に『世界全体が幸福にならなければ、個人の幸福はあり得ない』

糸賀一雄氏の言葉に『この世の中には、全体としてどんな繁栄があっても、その中で不幸で泣く人が一人でもいれば、厳密な意味で福祉が欠けた社会といわなければ』

奈良市手をつなぐ親の会は『福祉で街づくり。～障がい者（支援が必要な人）が住みやすい街は、全ての方が住みやすい街～』この考え方を活動方針としています。

親の会が、宮沢賢治・糸賀一雄両氏と同じとはとても言えませんが、障がいをもつ我が子だけの幸せを願うだけではなく、全ての人の幸せの中に我が子の幸せも見つけられる世の中になることを願っています。

しかし、現実はそのような夢みたいな甘い世界ではありません。

福祉現場及び障がい児者と共に生きる家族にとって、理想論は“夢”であり、直面する生活課題にどの様に向かうという“現実”との間を埋めていくのが『運動・活動』と考えています。

私たちが迎える“老い”、そしてその先にある“親なきあと”、この課題は誰もが避けては通ることが出来ない課題です。解決として障がい者本人には「所得保障」「医療保障」「法人後見制度」「障害者支援施設」「サービス等利用計画」などがあります。

そして、障害の「重い・軽い」はその人が暮らしている社会環境によって大きく変わるものです。障がい者に障害をもたらしているのは、それを配慮することなく営まれている社会の責任と言われる時代が訪れてきました。

全体の環境（誰もが住みやすい街）が整備されたロケーションに個別の支援メニューが加味されれば「親なきあと」も大丈夫かな？

これも「夢物語」かもしれません。あとは、運動・活動あるのみ。それが親の会です。